

ビジョン検討の手順

社会経済のトレンド抽出

避けるべき課題抽出

望ましい社会・環境像作成

着手すべき課題抽出

政策手段検討

【合宿の目的】

各領域における持続可能性に関わる問題の認識を踏まえつつ、2050年の持続可能な社会像とそれに向けて何を作成すべきか（超長期ビジョンはどうあるべきか）について検討し、超長期ビジョンの素案を作成する

事前準備 要素関係図

- ◆ これまでの検討会の発表をもとに、事務局において、各領域における問題の関係を整理（参考資料1）
- ◆ 1月第2週までに各委員に追加・修正等の確認をしていただいた

注) 発表内容に準拠しているため、ビジョン検討に必要な全分野を網羅している訳ではない

事前準備

コアエレメンツ

- ◆ 超長期ビジョンにおいて重要と思われる要素（コアエレメンツ）を1月第2週までに各委員に作成・提出いただいた（参考資料3）
 - ❖ 1人5個程度、各50文字以内程度
 - ❖ 専門分野に限らない、狭義の環境問題以外も含む
- ◆ 集まった計126個のコアエレメンツを合宿3日前に各委員へメールで送付

41 脱温暖化	67 国際分業化が促進したアジア社会	60 人口減少社会における環境保全の基本戦略	22 予防原則が徹底した社会	51 後戻りできる技術（失敗できる技術）の選択
普段の生活で神経質に注意せずとも温室効果ガスの排出負荷が1990年比20%で済むような技術に支えられた暮らし	重厚長大作業は中国、韓国、日本は電子情報（IT）産業、サービス産業に特化。	従来の人口増大下での環境保全と異なり、人口減少・予算制約下での中山間地などの環境荒廃防止の基本戦略	予防原則が政策を決定する際の基本方針の一つとして認識されている社会	見通しを誤った時に後戻りできない（失敗が許されない）技術に依存した政策、社会経済の運営は選択すべきでない。例えば地球温暖化など地球環境の悪化に対して我々は修復の技術を持たず、一方地球全体の環境を変えようとするまで人間活動が大きくなってしまったことをしっかりと認識した上で、社会経済活動の運営にあたるべき。

合宿の進め方：当初案

[初日午前] グループディスカッション1

[初日午後] 全体会議

[初日午後～] グループディスカッション2

[二日目午前] 全体会議

【目的】

- ❖ 関係性が比較的近いメンバーで構成されるグループ(4人×4グループ)において、領域内での要素の関係を整理し、問題構造を明らかにする。
- ❖ グループごとに担当領域に関する望ましい社会・環境像を得る。

【アウトプット】

- ❖ グループごとの対象領域についての要素関係図。
- ❖ 要素関係図と対応するようにマッピングされたコアエレメントの分布図。
- ❖ グループごとの持続可能性を代表する「集約されたコアエレメント」(3-4個程度)と、その概要。

合宿の進め方:当初案

[初日午前] グループディスカッション1

[初日午後] 全体会議

[初日午後~] グループディスカッション2

[二日目午前] 全体会議

【目的】

- ❖ グループディスカッション1における作業内容を共有する。

質疑は、各グループにおいて示された作業内容を共有、理解することが中心。意見の調整等はこの場では行わず、グループディスカッション2において行う。

合宿の進め方:当初案

[初日午前] グループディスカッション1

[初日午後] 全体会議

[初日午後~] グループディスカッション2

[二日目午前] 全体会議

【目的】

- ❖ 「グループディスカッション1」での領域が異なるメンバーにより構成されるグループごとに、社会全体について持続可能性に関する諸要素の関係を明らかにする。
- ❖ 多面的な視点から総合的な着地点(社会・環境像)とそれに至る経路(シナリオ)を含むビジョン(広義)を作成する。

【アウトプット】

- ❖ 社会全体の要素関係図。
- ❖ 要素関係図と対応するようにマッピングされたコアエレメントの分布図。
- ❖ 持続可能な社会ビジョンとそのタイトル、ビジョンを示すコアエレメント(数個以内)
- ❖ 上記のビジョン説明資料。

合宿の進め方：当初案

[初日午前] グループディスカッション1



[初日午後] 全体会議



[初日午後～] グループディスカッション2



[二日目午前] 全体会議

【目的】

- ❖ 持続可能な社会のビジョンの概要について成果を共有するとともに、検討会としてのビジョンのとりまとめについて議論する。

合宿の進め方：実際の流れ

【当初案と実際】

- ◆ 当初は、グループディスカッション1で各領域の持続可能性について議論し、グループディスカッション2で社会全体の持続可能性ビジョンを構築する予定
- ◆ 実際は、グループディスカッション1で社会全体のビジョンに関する議論が先行



【方針の修正】

- ◆ グループディスカッション2で、ディスカッション1のアウトプットを個別環境問題にブレイクダウン
- ◆ グループディスカッション3を新たに設け、ディスカッション1・2を踏まえ、社会全体のビジョンを再度検討

グループディスカッション1

[初日午前] グループディスカッション1

[初日午後] 全体会議

[初日午後] グループディスカッション2

[初日夕刻] 全体会議

[二日目午前] グループディスカッション3
~ 全体会議

【目的】

- ❖ 関係性が比較的近いメンバーで構成されるグループ(4人×4グループ)において、領域内での要素の関係を整理し、問題構造を明らかにする。
- ❖ グループごとに担当領域に関する望ましい社会・環境像を得る。

【アウトプット】

- ❖ グループごとの対象領域についての要素関係図。
- ❖ 要素関係図と対応するようにマッピングされたコアエレメントの分布図。
- ❖ グループごとの持続可能性を代表する「集約されたコアエレメント」(3-4個程度)と、その概要。